

ミオグロビンキット

* ケミルミ ミオグロビン

■ 全般的な注意

- 本品は体外診断用医薬品ですので、それ以外の目的に使用しないでください。
- 本品の測定結果は、患者の治療歴、臨床症状その他関連する他の検査結果等を考慮して総合的に判断ください。
- 電子添文に記載されている以外の使用方法については保証しません。
- 使用する機器の電子添文及び取扱説明書をよく読んでから使用ください。
- 適切な保護手袋、保護衣、保護用眼鏡及び顔防衛マスクを使用し測定ください。

■ 形状・構造等 (キットの構成)

*1. ケミルミ ミオグロビン

基本試薬パック

構成試薬	内容量	成分
標識試薬	5.0 mL	アクリジニウムエステル標識抗ミオグロビンヤギポリクローナル抗体 (略名: アクリジニウムエステル標識抗ミオグロビン抗体)、アジ化ナトリウム (<0.1%)
固相化試薬	10.0 mL	抗ミオグロビンマウスモノクローナル抗体結合磁性粒子 (略名: 抗ミオグロビン抗体結合磁性粒子)、アジ化ナトリウム (<0.1%)

本キットにはMYOマスターカーブカードが付属します。

2. 酸化剤/酸化補助剤 (別売)

構成試薬	内容量	成分
酸化剤	1500 mL / 本	0.5% 過酸化水素 0.1N 硝酸
酸化補助剤	1500 mL / 本	0.25N 水酸化ナトリウム

ADVIA Centaur CP用として、300mLがあります。

■ 使用目的

血清又は血漿中ミオグロビンの測定

■ 測定原理

本品は、化学発光免疫測定であり、反応形式は、一定量2種の抗体を用いる2サイトサンドイッチ法です。第1の抗体は、標識試薬中のアクリジニウムエステル標識抗ミオグロビン抗体です。第2の抗体は固相化試薬中の抗ミオグロビン抗体結合磁性粒子です。

■ 操作上の注意

本品はケミルミ ADVIA Centaur シリーズ (以下ADVIA Centaur シリーズ) の専用試薬です。

**1. 測定試料の性質、採取法

本品の測定には血清又はヘパリン加血漿を使用ください。これらの検体タイプを互換的に使用しないでください。取扱い、保存方法については各施設で検討の上、使用者の責任において設定ください。

- ・静脈穿刺に関する感染予防措置を講じて、採血ください。
- ・検体が適切に凝固してから遠心分離ください。
- ・検体は常に栓をして立てた状態で保存ください。
- ・8時間を越えて室温に保存した検体は使用しないでください。
- ・8時間以内に測定が終了しない場合は、検体にしっかり栓をして2~8°Cで冷蔵保存ください。
- ・48時間以内に測定を行わない場合は、-20°C以下で検体を凍結保存ください。
- ・凍結は1回限りとし、融解した検体はよく混和ください。
- ・保存検体は室温に戻してから使用ください。

検体を機器に装填する前に下記の事項を確認ください。

- ・検体中には、フィブリンや浮遊物がないこと。
- ・検体には気泡がないこと。

本品への抗凝固剤の影響を評価するため、20検体をプレーンガラス製、ガラス製SST、プラスチック製SST、ガラス製ヘパリン及びプラスチック製ヘパリン採血管に採取しました。約500ng/mLのミオグロビンを各検体に添加し回収率を判定した結果、ADVIA Centaurを用いた本測定の採血管種類による平均変化は5%以内でした。さらに、149対 (ADVIA Centaur CPの場合48対) のヘパリン加血漿と血清検体を各機器で測定し以下の結果を得ました。

- **
- ・ADVIA Centaur XP/XPT
血漿ミオグロビン = 0.96 (血清ミオグロビン) + 1.73 ng/mL
r = 0.99
 - ・ADVIA Centaur CP
血漿ミオグロビン = 0.97 (血清ミオグロビン) - 1.59 ng/mL
r = 0.98

2. 妨害物質

- **
- ・下記の濃度の内因性妨害物質による測定結果への影響は、5%以下でした。本試験はCLSI EP7-P²に従って実施されました。

血清検体	濃度
溶血	1000 mg/dL ヘモグロビン
脂肪血	1000 mg/dL トリグリセリド
黄疸	40mg/dL 抱合型ビリルビン
黄疸	40mg/dL 非抱合型ビリルビン
タンパク血症	12.5g/dL タンパク質

■ 用法・用量（操作方法）

操作法の詳細は機器の取扱説明書を参照ください。

1. 試薬の調製と取扱い

校正剤を除く試薬は全て液状のためそのまま使用ください。

- (1) 基本試薬パックは機器に装填する前に手で混和ください。
- (2) 試薬パックの底の微粒子が全て分散し、試薬パックの底に沈殿物が無いことを確認してください。

注意：

- ・機器に装填後、28日を経過した基本試薬パックは廃棄ください。
- ・使用期限の過ぎた試薬は使用しないでください。

2. 必要な器具・器材・試料等

- ・ADVIA Centaur シリーズ
- ・ケミルミ ACS-校正剤U
- ・ケミルミ ACS-共通希釈液10：アジ化ナトリウム (<0.1%) 含有
- ・特殊洗浄液1：アジ化ナトリウム (<0.1%) 含有 (ADVIA Centaur CPのみ)

3. 機器への装填

- (1) 測定を開始する前に、機器に装填している試薬の量が測定に十分な量であることを確認してください。
- (2) 基本試薬パックをラベルの端にある矢印に合わせて、試薬挿入部に装填ください。

注意：ADVIA Centaur CPではプローブは1つだけなので、基本試薬パックを左右と中央に配置する必要はありません。

- (3) 装填後の試薬は、機器が自動的に攪拌するので、常に均一な懸濁液状に保たれています。
- (4) 検体を自動希釈する場合は、ケミルミ ACS-共通希釈液10を補助試薬挿入部に装填ください。

4. 校正間隔と装填後の安定性

本品の校正にはケミルミ ACS-校正剤Uを使用ください。使用方法についてはケミルミ ACS-校正剤Uの取扱説明書を参照ください。

機器装填後試薬（基本試薬パック）の安定性：28日
校正間隔：14日

以下の場合において低濃度及び高濃度校正剤による校正（2ポイントキャリブレーション）を実施ください。

- ・校正後、14日経過したとき
- ・基本試薬パックのロットが変更になったとき
- ・機器の部品を交換したとき
- ・精度管理の結果が繰り返し期待値から外れるとき

5. マスターカーブの校正

- ・新しいロットの試薬（標識試薬、固相化試薬）を使用する際には、マスターカーブによって校正ください。
- ・ロットの変更ごとに、バーコードスキャナ又はキーボードで、試薬のマスターカーブ値を機器に入力ください。マスターカーブカードには、マスターカーブ値が記載されています。
- ・マスターカーブ値の入力方法の詳細については機器の取扱説明書を参照ください。

6. 検体量

1回の測定に必要な検体量は10 μLです。この検体量には、検体カップ内の測定に使用できない量（dead volume）、2重測定や再測定等を実施する際にさらに必要となる量は含まれていません。最小必要量の測定の詳細に関しては機器の取扱説明書を参照ください。

7. 希釈方法

- ・測定結果が1000 ng/mL (μg/L) を超える場合は、正しい結果が得られるように希釈してから再測定ください。
- ・機器による自動希釈又は用手法による希釈のいずれも可能です。
- ・自動希釈の場合、ケミルミ ACS-共通希釈液10を装填し、以下のとおりパラメーターを設定ください。

Dilution point：≤1000 ng/mL (μg/L)

Dilution factor：2, 10, 20

自動希釈の設定方法に関しては、機器の取扱説明書を参照ください。

- ・自動希釈の測定結果が測定の直線性を超えた場合や、検査室で用手法による希釈を規定している場合は、用手法により検体を希釈ください。
- ・用手法で検体を希釈する場合はケミルミ ACS-共通希釈液10を用いて希釈し、機器に装填されている希釈前の検体と交換してサンプルラックに装填ください。

- ・希釈した検体の測定結果が計算上およそ正しい値であるかを確認ください。機器に予めDilution factorを設定入力した場合は、自動的に測定結果が算出されます。

注意：自動希釈に必要な検体量は、1回の測定に必要な検体量と異なります。

自動希釈に必要な検体量については、次の情報を参照ください。

希釈率	検体量 (μL)
2倍	70
10倍	40 (ADVIA Centaur CPの場合20)
20倍	20 (ADVIA Centaur CPの場合10)

8. 精度管理

精度管理の頻度については、行政当局の規制や許可条件に従ってください。コントロール値の入力方法を含めて精度管理の詳細については、機器の取扱説明書を参照ください。

機器の性能や測定値の傾向を管理するため、最低限の要求事項として、測定実施日ごとに2濃度（低濃度・高濃度）の精度管理用コントロールで精度管理を実施ください。校正（2ポイントキャリブレーション）を実施する際にも精度管理用コントロールを測定ください。精度管理用コントロールは全て患者検体と同様に取扱いください。本品の精度管理用コントロールには、その性能が保証できる少なくとも2濃度（低濃度・高濃度）のコントロールを使用ください。適切に実施された検査室内の精度管理法によって測定した精度管理用コントロールの結果が本機器又は各施設の基準範囲内であるとき、機器の性能は基準に達しています。

精度管理の結果が期待値あるいは検査室で設定した値の範囲から外れる場合は、測定結果をそのまま報告せず、次の操作を行ってください。

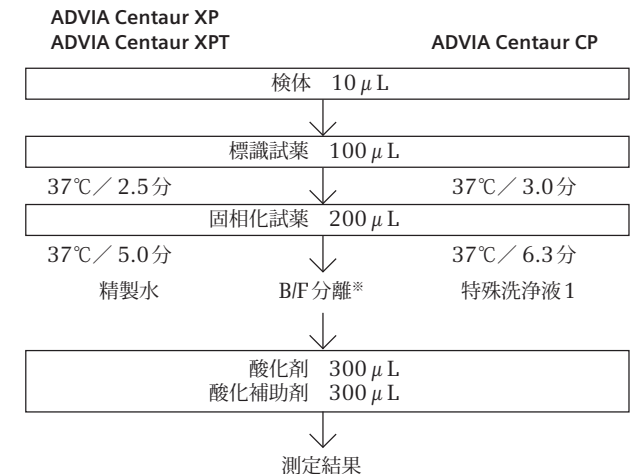
- ・試薬等の使用期限が切れていないか確認ください。
- ・必要な保守点検が行われたか確認ください。
- ・機器の取扱説明書や本電子添文の手順に従って測定されたか確認ください。
- ・新しいコントロールで再測定ください。
- ・必要な場合は、当社に連絡ください。

9. 測定方法

検体の測定方法及び測定結果の算出方法の詳細については、機器の取扱説明書を参照ください。

測定機器により、次の動作が自動的に実行されます。

**



※B/F分離とは、抗原抗体複合体 (B,bound) と未反応の標識体 (F,free) を分離することです。

注意：精製水の情報については機器の取扱説明書を参照ください。

患者検体中のミオグロビン量と機器によって検出されるRLUs（相対的発光量）の間には、正の相関関係があります。

■ 測定結果の判定法

測定結果の算出方法の詳細については、機器の取扱説明書を参照ください。

1. 結果の判定法

機器は、血清ミオグロビン結果を、測定の設定時に規定した単位に応じて ng/mL (慣用単位) 又は $\mu\text{g/L}$ (SI単位) で報告します。

換算式は $1.0\text{ng/mL} = 1.0\mu\text{g/L}$ です。

2. 参考基準範囲

製造元において ACS:180 を用い本品の参考基準範囲が立証されました。測定結果は 723 検体 (健常者血清検体 703 例、心筋障害患者 20 例 (ミオグロビン濃度最大は 890.5ng/mL ($\mu\text{g/L}$)) より得られました。本データの累積分布に基づくミオグロビンのカットオフ値は 110ng/mL ($\mu\text{g/L}$) です。

臨床状態	ミオグロビン中央値 (ng/mL) ($\mu\text{g/L}$)
健常者	36.4
心筋障害群患者	282.8

** ADVIA Centaur XP/XPT

これらの参考基準範囲は、ミオグロビン濃度が $12.65\sim 986.21\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) の 480 検体を用いて確認されました。

• ADVIA Centaur CP

これらの参考基準範囲は、ミオグロビン濃度が $11.87\sim 888.31\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) の 192 検体を用いて確認されました。

性能 3. 相関性を参照ください。

注意: ミオグロビンの値は、測定方法や試薬の特異性の違いにより変わるので、検査結果の判定には使用したミオグロビン測定系を考慮ください。異なった測定法により得られた値間で関連付けて判断することは出来ません。患者を継続してモニターしている途中でミオグロビン測定法を変える際は、カットオフ値の設定に充分ご注意ください。

他の検査薬と同様に、参考基準範囲は各施設において設定ください⁴。

3. 判定上の注意

• 高濃度フック現象

測定値が極めて高い場合、RLUs が異常に減少することがあります (高濃度フック現象)。本法において、患者検体中のミオグロビン値が $200,000\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) 程度の高値では、ミオグロビンは 1000ng/mL ($\mu\text{g/L}$) を超えた値として測定されます。

* ヒト血清中の異好抗体は、試薬中の抗体と反応して、反応系を妨害することがあります³。動物や動物の血清に日常的に接触している患者では、この妨害が発生しやすく、測定結果が異常値を示すことがあります。診断にはさらなる情報を要することがあります。

** ■ 性能

1. 測定範囲

$3\sim 1000\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$)

2. 性能

用法及び用量欄の操作方法により、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

** (1) 感度試験

高濃度の校正剤 (ミオグロビン濃度 $590\sim 797\text{ng/mL}$) を試料として操作した場合のカウント (B.high) に対する低濃度の校正剤 (ミオグロビン濃度 $\leq 3.00\text{ng/mL}$) を試料として操作した場合のカウントの百分率 (B.low/B.high) % は 0.12% 以上 0.50% 以下です。

※カウントとは、標識したアクリジニウムエステルが酸化する際の化学発光により生じた光子を光電子増倍管で測定するときの単位です。

(2) 正確性試験

3種の管理血清のミオグロビン濃度を測定するとき、あらかじめ定められた値に対し、 $\pm 20\%$ の範囲に入ります。

(3) 同時再現性試験

同一の管理血清のミオグロビン濃度を 3 回同時に測定する時、濃度の CV は 15% 以下です。

**3. 相関性

171 血清検体で試験しました。本品 (y) (ACS:180 を使用) 及び対照品 (x) の相関性を線形近似最小二乗法を使用して求めました。

$$y = 0.96x + 7.8\text{ng/mL}$$

相関性は、試験デザイン、比較対象の測定法、検体母集団によって異なります。各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

• ADVIA Centaur XP/XPT

ミオグロビン濃度が $12.65\sim 986.21\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) の 480 検体における ADVIA Centaur による本品の測定値 (以下 ADVIA Centaur ミオグロビン) と ACS:180 の測定値 (以下 ACS:180 ミオグロビン) との関係は以下の計算式で示されます。

$$\text{ADVIA Centaur ミオグロビン} = 1.02(\text{ACS:180 ミオグロビン}) - 1.69\text{ng/mL}$$

$$\text{相関係数 (r)} = 0.99$$

• ADVIA Centaur CP

ミオグロビン濃度が $12.06\sim 920.16\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) の 199 検体における ADVIA Centaur CP による本品の測定値 (以下 ADVIA Centaur CP ミオグロビン) と ADVIA Centaur ミオグロビンの測定値との関係は以下の計算式で示されます。

$$\text{ADVIA Centaur CP ミオグロビン} = 1.05(\text{ADVIA Centaur ミオグロビン}) - 5.61\text{ng/mL}$$

$$\text{相関係数 (r)} = 1.00$$

ミオグロビン濃度が $11.87\sim 888.31\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) の 192 検体における ADVIA Centaur CP ミオグロビンの測定値と ACS:180 ミオグロビンの測定値との関係は以下の計算式で示されます。

$$\text{ADVIA Centaur CP ミオグロビン} = 0.99(\text{ACS:180 ミオグロビン}) + 1.64\text{ng/mL}$$

$$\text{相関係数 (r)} = 0.99$$

**4. 希釈回収試験

• ADVIA Centaur XP/XPT

ミオグロビン濃度が $710.2\sim 935.1\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) のヒト血清 4 検体を、ケミルミ ACS-共通希釈液 10 を用いて 2 倍、4 倍、8 倍、16 倍、32 倍に希釈し、回収率と希釈直線性を試験しました。回収率は 90.2~103.5% で、平均値は 97.6% でした。

検体	希釈率	実測値 (ng/mL) ($\mu\text{g/L}$)	期待値 (ng/mL) ($\mu\text{g/L}$)	回収率 (%)
1	—	935.1	—	—
	2 倍	465.9	467.5	99.7
	4 倍	227.7	233.8	97.4
	8 倍	111.3	116.9	95.2
	16 倍	55.2	58.4	94.5
	32 倍	29.3	29.2	100.4
	平均			97.4
2	—	710.2	—	—
	2 倍	361.2	355.1	101.7
	4 倍	176.1	177.6	99.2
	8 倍	86.8	88.8	97.8
	16 倍	42.5	44.4	95.7
	32 倍	20.7	22.2	93.2
	平均			97.5
3	—	864.1	—	—
	2 倍	431.3	432.1	99.8
	4 倍	214.7	216.0	99.4
	8 倍	109.0	108.0	100.9
	16 倍	52.7	54.0	97.5
	32 倍	26.9	27.0	99.6
	平均			99.4
4	—	722.4	—	—
	2 倍	374.0	361.2	103.5
	4 倍	178.4	180.6	98.8
	8 倍	86.4	90.3	95.7
	16 倍	41.5	45.2	91.8
	32 倍	20.4	22.6	90.2
	平均			96.0
平均			97.6	

上記の試験は、ADVIA Centaur を用いて実施しました。各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

• ADVIA Centaur CP

ミオグロビン濃度が $487.7\sim 929.7\text{ng/mL}$ ($\mu\text{g/L}$) のヒト血清 4 検体を、ケミルミ ACS-共通希釈液 10 を用いて 2 倍、4 倍、8 倍、16 倍、32 倍に希釈し、回収率と希釈直線性を試験しました。回収率は 93.4~105.3% で、平均値は 99.9% でした。

**5. 添加回収試験

25.6~71.2 ng/mL (μg/L) の内因性ミオグロビンを含む4検体に、様々な量のミオグロビンを添加しました。ADVIA Centaurによる回収率は91.8~110.8%で、平均値は102.4%でした。

検体	添加量 (ng/mL) (μg/L)	実測値 (ng/mL) (μg/L)	期待値 (ng/mL) (μg/L)	回収率 (%)
1	—	27.6	—	—
	32	62.1	59.6	107.8
	64	93.7	91.6	103.3
	128	158.3	155.6	102.1
	400	424.8	427.6	99.3
	600	622.5	627.6	99.2
	800	822.5	827.6	99.4
	平均			101.8
	2	—	25.6	—
32		59.2	57.6	105.0
64		90.8	89.6	101.9
128		159.8	153.6	104.8
400		417.5	425.6	98.0
600		620.3	625.6	99.1
800		816.1	825.6	98.8
平均				101.3
3		—	28.7	—
	32	63.7	60.7	109.4
	64	97.4	92.7	107.3
	128	170.5	156.7	110.8
	400	450.4	428.7	105.4
	600	610.8	628.7	97.0
	800	842.5	828.7	101.7
	平均			105.3
	4	—	71.2	—
32		104.7	103.2	104.7
64		139.5	135.2	106.7
128		212.6	199.2	110.5
400		465.1	471.2	98.5
600		645.9	671.2	95.8
800		805.3	871.2	91.8
平均				101.3
平均				102.4

上記の試験は、ADVIA Centaurを用いて実施しました。各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

6. 精度

** • ADVIA Centaur XP/XPT

9検体について、6重測定で12回、4日間にわたり、4台の機器を用いて測定を行ったところ(各検体n=72)、下記の結果が得られました。

平均 (ng/mL) (μg/L)	同時再現性 CV(%)	測定間再現性 CV(%)	総 CV(%)
53.11	2.6	2.8	3.8
63.55	2.7	3.4	4.4
71.87	3.1	3.8	4.9
143.38	2.3	1.3	2.6
223.72	3.4	2.0	2.9
312.94	2.4	1.8	3.0
362.06	2.7	1.1	2.9
455.21	2.5	1.5	2.9
681.65	2.3	2.0	3.0

• ADVIA Centaur CP

CLSI EP5-A2に従い⁵、10日間にわたり、1日2回、3台の機器を用いて、1つの試薬ロットで測定を行いました。機器は初日の初回測定直前に校正しました。測定結果は、低・高濃度校正剤による校正で計算し、次の結果が得られました。

平均 (ng/mL) (μg/L)	同時再現性 CV(%)	測定間再現性 CV(%)	総 CV(%)
65.33	3.97	4.73	6.17
454.64	2.99	3.17	4.36
858.40	3.69	3.68	5.21

7. 分析感度

本法による測定範囲上限は1000 ng/mL、分析感度は3 ng/mLです。分析感度はミオグロビンゼロスタンダードを20重測定したときの平均RLUs+2SD (標準偏差) に相当するミオグロビン濃度と定義されます。

8. 標準物質のトレーサビリティ

本品は、高純度の物質を使用して製造された社内標準物質にトレーサビリティを有しています。本品の校正剤の値はこの標準化にトレーサビリティを有しています。

■ 使用上又は取扱い上の注意

1. 取扱い上の注意

• 検体及びヒト由来成分を含む試薬は、HIV、HBV、HCV等の感染の恐れがあるものとして取扱いください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペティングを行わないでください。


• 酸化剤は酸性溶液 (pH<2)、酸化補助剤はアルカリ性溶液 (pH13) です。使用に際しては、試薬が直接皮膚に付着したり、目に入らないように注意ください。


• 試薬が誤って目や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当等を受けてください。

** • 本測定で使用する試薬には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれている場合があります。詳細は、■形状・構造等 (キットの構成) 又は ■用法・用量 (操作方法) の必要な器具・器材・試料等を参照ください。誤って眼や口に入ったり、皮膚に付着したりした場合は、水で十分に洗い流す等の応急措置を行い、必要があれば医師の手当等を受けてください。

• 本品は動物由来成分を含むので潜在的感染性のあるものとして取扱いください。

** • 次の試薬に関する危険有害性情報、注意事項を示します。

	酸化剤は、硝酸を含有しています。
	H290 P390, P501
	警告： 金属腐食のおそれがあります。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収してください。内容物及び容器は、地方自治体及び国の規制に従い廃棄ください。	

	酸化補助剤は、水酸化ナトリウムを含有しています。
	H290, H315, H319 P280, P305+P351+P338, P390, P501
	警告： 金属腐食のおそれがあります。皮膚に刺激があります。眼に強い刺激があります。
保護手袋、保護衣、保護用眼鏡及び顔防御マスクを着用ください。眼に入った場合、水で数分間注意深く洗ってください。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。物的被害を防止するためにも流出したものを吸収してください。内容物及び容器は、地方自治体及び国の規制に従い廃棄ください。	

2. 使用上の注意

• 試薬は立てた状態で2~8℃で保存ください。

• 試薬パックは全ての熱源及び光源を避けてください。機器に装填した試薬は遮光されます。未使用の試薬は熱源及び光源を避け、2~8℃で保存ください。

• 基本試薬パックは、機器に装填する前に手で混和ください。

- パックの底の微粒子が全て分散し、試薬パックの底に沈殿物が無いことを確認ください。
- 使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。
- 同一ロットであっても、試薬の注ぎ足しはしないでください。
- 未開封の試薬は下表に記載されている貯法において、ラベルに記載されている使用期限まで使用できます。開封後・調製後の安定性と保存条件は次の通りです。ただし、各バイアルに記載した使用期限内に使用ください。

試薬	貯法	機器装填後の安定性
ケミルミ ACS-共通希釈液 10	2~8℃	使用開始から28日間

**3. 廃棄上の注意

- 検体中には HIV、HBV、HCV 等の感染性のものが存在する場合がありますので、廃液、使用済み器具等は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000 ppm、1 時間以上浸漬）又はグルタールアルデヒド溶液（2%、1 時間以上浸漬）による消毒処理、あるいはオートクレーブ（121℃、20 分以上）による滅菌処理を行ってください。
- 試薬や検体等が飛散した場合には、拭き取り及び消毒を行ってください。
- 危険性のある試薬又は感染性廃棄物は、検査室の基準に従い廃棄ください。試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従い処理ください。
- 本測定で使用する試薬には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれているものがあります。詳細は、■形状・構造等（キットの構成）又は ■用法・用量（操作方法）の必要な器具・器材・試料等を参照ください。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応し、爆発性の強い金属アジドを生成することがあるため、廃棄の際には多量の水と共に流してください。各法令に従い廃棄ください。

■ 貯蔵方法・有効期間

1. 貯蔵方法

- (1) 標識試薬、固相化試薬：2~8℃で保存
- (2) 酸化剤、酸化補助剤：4~25℃で保存

**2. 有効期間

- (1) 標識試薬、固相化試薬：12 ヶ月
- (2) 酸化剤、酸化補助剤：18 ヶ月

■ 包装単位

*ケミルミ ミオグロビン 250テスト用

基本試薬パック（標識試薬/固相化試薬） 5本 品目コード：09011232
(117031)

*ケミルミ ミオグロビン 50テスト用

基本試薬パック（標識試薬/固相化試薬） 1本 品目コード：05336153
(117030)

<別売>

酸化剤 / 酸化補助剤

5000 テスト用、各 1500 mL/ 本 品目コード：03852677
(112219)

** (ADVIA Centaur XP/XPT 用)

1000 テスト用、各 300 mL/ 本 品目コード：00497043
(ADVIA Centaur CP 用)

**ケミルミ ACS- 較正剤 U (Calibrator U)

(低濃度較正剤/高濃度較正剤) 各2バイアル 品目コード：03684480
(111083)

ケミルミ ACS-共通希釈液 10

2×5mL (自動希釈用) 品目コード：05440554
(117227)

特殊洗浄液 1

** 2×2500 mL (ADVIA Centaur XP/XPT/CP 用) 品目コード：03773025

** 2×1500 mL (ADVIA Centaur XP/XPT/CP 用) 品目コード：01137199
(112351)

■ 主要文献

1. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *Procedures for the Handling and Processing of Blood Specimens; Approved Guideline - Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2004. NCCLS Document H18-A3.
- **2. Clinical and Laboratory Standards Institute. *Interference Testing in Clinical Chemistry; Proposed Guideline*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 1986. NCCLS Document EP7-P.

3. Boscato LM, Stuart MC. Heterophilic antibodies: a problem for all immunoassays. *Clin Chem*. 1988;34:27-33.
4. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *How to Define and Determine Reference Intervals in the Clinical Laboratory; Approved Guideline - Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2000. NCCLS Document C28-A2.
5. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *Evaluation of Precision Performance of Quantitative Measurement Methods; Approved Guideline - Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2004. NCCLS Document EP5-A2.

■ 問い合わせ先

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
カスタマーケアセンター

**電話：03-4582-5520

■ 製造販売元

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
東京都品川区大崎 1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー

輸入

10310277M1_04
(ADVIA Centaur : 10629883_EN Rev.J,
CP : 10629982 Rev.F)